

平成30年7月13日(金) No.428



からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校

里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年176名 2年179名 3年155名

<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/sato-j/>

「心をなくす前に」 ～待つ心を～

校長 高田 晶子

7月に入り梅雨明けと共に猛暑続きとなりました。暑い最中に開催された学校総合体育大会での活躍もあり、1学期のまとめの時期を迎えましたが、生徒たちの日々一生懸命な姿に元気をもらっております。大会中は保護者、地域の皆様のたいなるご協力に支えられ、猛暑の中にも心の温もりを感じました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



さて、里中学校も学期末を迎え、“やることリスト”がいっぱいになってきました。時間に追われ、かなり忙しい生活を強いられます。大人が忙しければ、その姿を見ている子どもたちにも、忙しい時間の流れが伝わってしまいます。「忙しい」という字は「心を亡くす」表され、あまり使いたくない言葉でもあります。ゆとりのある生活は、皆さんがたいに望んでいることでしょう。

雑誌の記事に「子どもを持つ親にとって大切な心構え」という欄を見つけました。

JACOT副理事長の荒木秀夫氏が書かれたものです。

子どもは何ができたなら良いのか、また何ができなければならないのか。これは案外と難しいテーマです。子どもは思いもかけないことに関心を示すし、意外なことを始めます。大人はそれに感動したり驚いたり、一喜一憂するばかり。子どもの発達には、非常に大きな「揺らぎ」があります。その中に「芯」となるものは、堅実に伸びていくわけです。何ができるようになったら良いかと考える前に、避けたいことを意識したいものです。・・・「特化」「早熟化」「固定化」は避けたいことです。・・・子どものスポーツや運動が盛んになり、音楽教育も拡がりました。大なり小なり、これらの教室に通った経験のある子どもが増えています。しかし、なぜ「今の子どもはおかしい」と感じるのでしょうか。私たち大人には、子どもに対する「待つ心」を持つことが大切なのではないでしょうか。

学校では子どもたちに、「時間を大切に 今できることを一生懸命やりましょう」と指導しています。そこに、頑張らせながらも「待つ心」をプラスしていけたら、もっとゆとりを生み出せるのではないかと考えます。待つことで心のゆとりが生まれ、子どもたちの成長を見届けられるのではないかとと思うのです。目の前のできた、できないに振り回されることで「忙しく」なり、心を亡くすなんてとても寂しいことですから。

夏季休業中に入りますが、猛暑日が続くことが予想されます。十分な睡眠や水分補給に心がけお過ごしください。1学期間ありがとうございました。